

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さゆり会 ひまわりルーム		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 17日		～ R7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	R7年 3月 10日		～ R7年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士、言語聴覚士、保育士、児童指導員など多職種が勤務している。それぞれの視点から子どもたちの行動の理由を考え、チームで共有できる。	支援後の記録、カンファレンスは支援に関わった職員全員で行っている。グループ担当(リーダー)は決めているが、サブとして他のグループにも入るため、ほぼ全職員がどのお子さんとも関わる。また、プログラムの立案もチームで行う。	何のための活動なのか、子どもたちが活動をこなすことが目的にならないように、支援側が明確なビジョンを持つことを意識する。そのため、個別の目標とグループの目標を確認し、すり合わせる時間をより多く設ける。
2	こども園や幼稚園、こども未来課、教育委員会など地域との関り、支援を積極的に行っている	保育所等訪問支援、定期健診での子育て相談(委託事業)、教育委員会の就学相談の活用など地域との関りを大切にしている。また、県の事業も活用しながら、登録児だけではなく、地域の児童やご家族にも関わるようにしている。	次年度はもっと地域支援を増やしていきたい
3	現状に満足せずに、新しい取り組みをしている	県の事業を積極的に活用している。今年度は児童発達支援センター等機能強化事業を活用し、登録児以外のお子さんや関係機関の支援を行いました。また、ペアレントメンターさんの相談会も行い、保護者さん同士が関わる機会を設けました。	保護者さん同士の関りが持てる機会を地域全体で作っていきたい。まずは、事業所内から。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援多機能型で、幼児から高校生までライフステージに合わせて関わることができるが、その分、じっくり時間が取れないことも多い。	人員が不足している	人員の確保！ 児童の年齢や状況に応じて、関り方を変えていく。定期利用にこだわらず、困り感にスポットを当てられるような支援を行う。
2	職員と保護者さん、または保護者さん同士の関りなどの時間の確保や機会が少ない	時間の確保が難しい	作業や活動を介して気軽に集まれる時間を設ける。保護者のみが参加する機会を設ける。
3	児童発達支援は週1回1時間程度の通所支援を提供している。そのため、災害や安全管理などの訓練と一緒に参加してもらうことが難しい。	ご家族に療育時間以外に時間を取ってもらうことが難しい	指針、マニュアル、研修や訓練の実施など丁寧に周知していく。